

新聞紙掲載記事

龍谷大学のボランティア活動が新聞各紙に紹介され、広い地域にその取り組みを知らせることができました。今回の報道を通じて、活動の意義や学生たちの努力が多くの人々に伝わり、地域社会とのつながりをさらに深める契機となりました。

人が曳き手に参加し、1年の
 〇龍谷大の学部生50人
 が、ボランティアで曳き手
 や警備員などを務め、祭り
 を支えた。
 (「神功皇后山」では、25
 ボランティアは2004年
 大津祭で、曳山の曳き手を務める龍谷大の学生ら

2024/10/14 中日新聞記事



①住居と一瞬に崩れを清掃する学生ら（石川
県珠洲市で）②焼けた市街道を訪れた学
生ら（岡崎県岡崎市で、いれも焼けた大徳）

龍谷大学ボランティア・NPO会議室に同会合同学習を学ぶ本大会のインターは、東日本大震災後の被災地や海外で活動している学生ボランティアによる報告が、月30日、同大学の深澤キャンパス（伏見区）などで行われ、毎日と復興が進まなっている様子や、被災者を寄り添いながら支援と希望をつくり出す意気持を語った。（矢沢寛記）

報告会には、5月27日に参加した学生たちが登壇し、津波で浸水した語り継がれたままの津州市の街並みの側を通る被災した大規模火災「帯が焼失した大規模火災」朝市通りを訪れた感想などを述べ

べた。

珠州市では、当初は遠慮がちで遠書きだった住民らとすぐに打ち解け、予定より多くの作業をこなしたことを写真を交えて紹介。学生の一人は「できることをやるのが『当たり前』に変

2024/6/5 読売新聞記事

被災地支援の活動報告

平和堂と龍谷大生
華蓮でセミナー

能登半島地震の被災地で、
の体験から、災害時の支
援に協同支援学ぶ会がセナ
ワリ、早稲田市の市民交
流うさぎで開かれ、約60人
が参加した。平和堂と龍谷
大の学生が被災状況や活動
を報告した。

熊本地社労部第3年の森
原裕太さん(21)と、2名の
親戚さん(女20)は、大学
のボランティア・NPO活
動センターが実施した「支
援活動」に参加した。経験者

んは4月、石川県七尾市で
被災家庭から一財の搬出を
仕分けたと答えた。「『い
た場所に達しない』という話
に衝撃を受けた」と話した。
その後、他の学生も被災し
た上、防災食を食べるなが
話し合える会を開いておけ
、「いんなりな」経験を伝
えていることが大切な」と強調

被災者の助けを請うて参
か、熊原さんと森原さん
から、熊原さんが所属する
注目の民間企業です。」

2024/12/6 中日新聞記事

龍大生、汗かき手伝い

47人ボランティア参加

大津市内に龍皇キャンパスがある龍大の学生たちが、ボランティアで巡りに携わった。神功皇后山（熊野）の曳き手や担ぎ手を補助し、汗を流した。

龍谷大学の学生がボランティアとして加わった神功皇后山の曳き手たち（大津市中央3丁目）

団体による連携支援の重要性についての講演もあった。
 淡海フィナンソロビーネットと県社会福祉協議会などから、企業・団体の社会貢献活動セミナーとして聞いた。
 （片山さゆみ）